

第4期多摩区区民会議 第7回自然災害部会 摘録

□開催日時	平成25年8月22日(木) 午後6時00分～8時20分
□会場	多摩区役所10階第1001会議室
□参加者	荒井部会長、細埜副部会長、安陪委員、石橋委員、岩崎委員、新田委員、原田委員、藤原委員、吉田委員(以上、自然災害部会員) 大津委員(委員長・コミュニティ部会員)
危機管理担当	森田課長補佐
事務局	門間課長、奈良職員
コンサルタント	福田研究員、梅田研究員
傍聴者	1名

開会に先立ち、多摩区役所地域振興課職員が「来て見て実感!!多摩区魅力アップ・アイデアコンテスト」の概要説明とコンテストへの応募協力を呼び掛けた。

1 審議テーマに関する取組内容について～具体的な取組、実施主体の検討～

【取組み1】「備える。かわさき」多摩区版の作成

コンサルタントが配布資料に基づき、前回パンフレットチームで検討された内容を説明し、意見交換を行った。

①マグネット方式

細埜副部会長 シンプルなものが良いのではないかと思いますデザイン案を作成した。色は、水と緑のまち多摩区ということで青と緑にした。緑はもう少し黄緑の明るい緑になるだろう。コンサル シンプルという説明があったが、日常的に冷蔵庫やドアに貼っておくものなので、目立つデザインで大変良い。

吉田委員 マグネット方式は大変良い。家の冷蔵庫にも、引っ越し業者のマグネットなどがいくつか貼ってあった。

原田委員 このサイズなら冷蔵庫に貼れるので良い。

吉田委員 回覧板と違い、各家庭でマジックで自分の家の避難所等を記載できる。

石橋委員 細埜委員の案の「持ち出し3点」とは、何を想定しているのか?

細埜委員 ここも決まったものではなく、各家庭で記入するものだ。

石橋委員 避難所と連絡先は書けるが、持ち出し品3点をこのスペースに書くとなると、何と何を想定するのか。持ち出し品は準備できたか、できていないか、持ち出し品はどこにあるかぐらいの方が良いのではないか。持ち出し品の内容は、各家庭で違うが、非常持ち出し品の袋は全戸に配布されていて、そこに持ち出し品は入れているはずだ。

コンサル 前回の議論では、いわゆる持ち出し品袋に入っているようなものではなく、常備薬、保険証、通帳など、普段は別の場所に置いてあるもので、持ち出さなくてはならないものが家庭ごとにあるのではないかということだった。

石橋委員 提言として出すときに、例示が必要だろう。

藤原委員 「3点」を削除すれば良いのではないか。必要な人はたくさん記入するし、一つしかない人は一つしか書かない。

石橋委員 いずれにしろ、こういう物が大切ではないかというものを例示しないといけない。

避難所と連絡先は書けるけれど、持ち出し品はなかなか書けない。

吉田委員 これだけを渡すわけではないから、渡すときに説明を書いて一緒に渡してあげれば良い。

②町内会掲示板・広報掲示板方式

吉田委員 町内会の掲示板を見たが、上方には設置した年月日、下方には五反田自治会という名称が既に掲示してあり、避難所を掲示する場所がなかった。

③回覧板方式

吉田委員 回覧板を参考に持ってきたが、商店の宣伝などがいろいろ書いてある。鴛鴦自治会の回覧板には、小さなスペースだが、帰宅困難者心得十か条が載っている。暮らしの便利帳等も載っているが、広告が多くて見てもらえないだろう。

原田委員 業者がこういうものはありますか、何枚必要ですかと聞いて作成する。回覧板そのものは、町内会にはタダで来る。

石橋委員 行政はどこの会社が回覧板を作っているか把握していないのか？

事務局 把握していない。お金をどこから出すかという問題はあるが、広告部分のスペースを買って、そこに防災の情報を載せるのが良いのかなと思った。ただし、各町会にどこの会社が入っているのかわからないと、採用してもらえない。アイデアは大変良いので、やりたいとは思ったが、実施に移す時にどうすれば良いのかはもう一工夫必要だ。おそらく何社かが町会に声をかけ、競争があると思う。一つの会社に独占させてしまうのは良くない。町会に入っている会社をお願いするのは一つの考え方としてあるが、その時に広告費をどこから出すのかという問題がある。

吉田委員 今年の6月に新しいものができた。空いているスペースがあるのでそこに防災情報を載せられると良いが、空きスペースができるかどうかは広告が取れるかどうかによる。防災情報を載せるから、ここは空けてくれという風にはできない。スペースを先に買ってしまえば、話は別だ。

荒井部会長 両面テープでくっつけるようなものはできないか。

コンサル 前回も、パウチをした紙を一枚挟んでどうかという意見もあった。

吉田委員 回覧板は、資料だけを見て回してしまう。

安陪委員 回覧板を作る業者の連絡先が記載されているので、防災の情報を掲載したいがどういう形で、どのくらいの部数で、いくらでできるのかを聞いてみる必要もある。それによって、行政ではどのくらいのスペースを買おうとか、スペースを買うのではなく貼り付けるものにしようといったことが検討できる。概算を知っておく必要がある。

藤原委員 業者から一コマいくらかを聞いて、その上で行政で助成が可能かどうかを検討する。

吉田委員 その場合は、掲載する内容がすべて同じでないといけない。避難所の場所などは掲載できないのが問題だ。

藤原委員 回覧板の場合は、「災害時にあなたの家で備えるもの」といった内容で良いのではないかな。

□まとめ

石橋委員 町内会や広報掲示板は避難所一点を広報し、自分の避難所がどこかを気にする。回覧板方式は、回覧板の3分1くらいのスペースをいただいて一般的なものを知らせる。先ほどの例の、帰宅困難者どうこうよりも、常に何を頭の中に置いておかななくてはいいかを書くようにすると良い。防災十か条のようなものだろう。マグネット方式は個

人の家で常に気をつけなさいよというものだ。それぞれに役割が違う。
コンサル それぞれに役割が違うものが3つ提案されて良い。
石橋委員 だからどれか一つだけを提案するのではなく、3点とも必要だと思う。
コンサル 9月4日の全体会では、この3つを現在検討中の提案として出して、コミュニティ部会の委員から意見を伺うということで良いか？
全委員 良い。

【取組み2】町内会・自治会向けアンケートの実施

事務局が、前回アンケートチームの検討をもとに作成したアンケートのたたき台を説明し、意見交換を行った。

石橋委員 鏡文とアンケートの語句が統一されていない。「町会」「町内会・自治会」「自治会・町内会」など、失礼のないように統一する。鏡文は「3.11大震災」となっているが、アンケートでは「平成22年3月11日の東日本大地震」となっている。表記が統一されていないし、年号も違っている。正式な名称を使用した方が良い。

吉田委員 一時避難場所を指定していない理由の選択肢が6つある。「いずれかに○」とあるが、一つにつけるのか、二つ以上つけても良いのか。

石橋委員 まず、「指定している」「指定していない」の選択肢があり、「指定している」に○を付けたら周知のところに行き、「指定していない」に○を付けたら理由のところに行くようなアンケートの作りにすれば良い。

吉田委員 3- (1) も、いくつか○を付けられるが、○は一つか。

石橋委員 ○は「いずれか一つ」だ。

コンサル 確かに、2- (1) -2 の指定していない理由はいくつか○が付けられそうだ。複数にするのが良いか、もっとも強い理由一つにするのが良いか。

石橋委員 複数にすると集計が大変なので、とくに強い理由一つで良い。

事務局 案を作ったときは、いずれか一つに○を付ける想定だった。

大津委員 「2 一時避難場所を指定したいが、適当な場所がない」と「3 一時避難場所の必要性を認めているが、指定に手が回らない」は、同じような理由ではないか。

コンサル 「手が回らない」という表現が、わかりにくいかも知れない。3 は、適当な場所はあるのだが、指定している時間等がないということだ。

事務局 場所はあるけれども、指定までに至っていないとすれば、2 と 3 の違いがはっきりする。

荒井部会長 3- (1) は、○を一つにしない方が良いのではないか。その上で2に○を付けた人には、(2) に具体的な内容を記入してもらってはどうか。

石橋委員 3は該当する町会が決まっている。3大学の寮も何もない町会がある。

大津委員 3を聞くのは危険ではないか。大学もないし、寮もない宿河原や長尾等の町会は何も書きようがない。そばにあれば、必要性は感じているはずだ。

岩崎委員 必要性というよりも、さまざまな条件で協力を要請するのは難しいという選択肢はあり得るだろう。もし難しいのであれば、どのようなアプローチをして大学に伝えていくかだ。大学としていろいろな要望事項が出て来ると想定した際に、実現するためにはどのようなことが必要か。たとえば、大学とのやりとりが必要だとか、行政を仲介して、町会と大学が話し合いの場を作るなど、区民の要望はわかるが、それを実現するためにはどのようなアプローチの仕方があるのかを大学サイドとしては知りたい。

石橋委員 岩崎委員の話を(3)に自由記入欄として設けてはどうか。(1) -3 は、「必要性」

を削除し、「連携をあまり感じていない」とすれば良い。そうすれば、寮がないような町会も回答しやすいだろう。身近に感じている町会は、(3)に具体的な内容を書いてもらえる。

吉田委員 「連携の必要性を感じていない」という文言だが、災害時は猫の手でも良いから借りたいと思う。その時に、「必要性を感じていない」という言葉はおかしい。

石橋委員 それでは選択肢の3は削除してはどうか。

吉田委員 学生がいるのだから、学生とどういう取組みをするのが良いかを聞く設問を入れた方が良い。

石橋委員 キャンパスや寮がないとなると、3大学に限定することになる。一般の大学生となると、それなら高校生はどうするのか、中学生はどうするのかという話になってしまうので、今回のアンケートではあくまでも3大学に絞った方が良い。

新田委員 具体的に連携している町会はあるのか？

原田委員 日本女子大が商店街と連携して商品開発をしたりしているが、防災に関して連携している事例はない。防災以外なら、先日も女子大の生徒が先生と一緒に盆踊りに来た。

新田委員 アンケートの目的として、大学との連携があった方が良いという結果になるだろう。その場合、どういう連携ができるのかという知恵集めの方を重点目的にした方が良いのではないか。

荒井委員 「3町内会・自治会では、大学との連携はまだ考えていない」としてはどうか。

大津委員 それなら、「3大学の学生との連携」とした方が良いのではないか。

藤原委員 大学側が生徒を回してくれるのか、区役所からお願いして、区役所がまとめて、町内会・自治会に配置してもらえるのかということがある。窓口があれば良いが、窓口がないならば、もう少し検討した方が良いと思う。

岩崎委員 地元からどういうことが要望されているのかを具体的に把握しないといけない。その中で、できることとできないことを取捨選択する。できることについては、どう具現化するのかを検討する。

藤原委員 (2)のご自由にお書きくださいの良いけれど、アンケートを書く方からすると、さて何を書こうかなとなる。それよりも、災害の時に大学の方にどのような協力をしてほしいですかということで、こういうもの、こういうものと書いてあげた方が記入できる。10くらい選択肢を作り、○をする方が記入する方は楽だ。

コンサル 前回の資料にはいくつかの選択肢を例示してあったが、アンケートチームの皆さんで検討し、自由回答の形になった経緯がある。

石橋委員 選択肢をいろいろと羅列するよりも、自由記述の方が良いのではないかというのが結果だった。たくさんある中からどう選択するのは難しいから、自由記述の方に逃げた。

藤原委員 最近のアンケートでは、3つでも4つでも選ばせるものもある。

吉田委員 回答する人はその方が楽だ。

事務局 前回の資料には、「支援物資の管理」、「高齢者や子どもの話し相手」など、いくつかの選択肢はあったが、レベルがバラバラだし、逆にそれに縛られてしまうのではないか、自由記述の方がいろいろな意見が出るのではないかという意見だった。

コンサル 選択肢ではなく例としてあげて、回答自体は自由記述にするのはどうか。

大津委員 救援支援物資の管理や配布は本部ができて、そこで担当する。その下に学生が入ってもらうことが前提だろうが、選択肢からはそこまで読み取れない。救援支援物資について記述するのは難しいだろう。

石橋委員 組織の中にすべて入って来る内容だ。ボランティアセンターが立ち上がった時に、支援物資の配布等はそこが中心となる。逆にそうではなくて、災害時に地域の人が学生にどんな協力を求めているのかを聞きたい。ボランティアとしてどんな内容を想定しているのかを聞き出そうということを検討する中で、自由記述の方式になった。災害時に対策本部ができ、ボランティアセンターが立ち上がって、その下でやるべきことまで選択肢に入っていたから、それは組織の中でやることであり、地域の学生といえどもボランティアセンターの下でやることになるので、選択肢としてふさわしくないとなった。

荒井部会長 「意見があればご自由にお書きください」という表現にしておくかだ。

石橋委員 ここにおられる町内会の皆さんが、それでは白紙だと言っているのだから何か考えないと、このままでは知恵がない。

コンサル 事例として、避難所運営会議やボランティアセンターに縛られずに大学生がボランティアとして取り組めることは、どんなことが想定できるのか？

岩崎委員 個人的には、できることとできないことを判断するために、町内会の皆さんがどう思うのか生の声をまず聞きたい。会議などで代表の方の声はいろいろ聞く機会はある。もし自由記述欄が空欄になれば、そういうことを要望されていないのかということも判断になる。空欄がたくさんあれば、大学に対して期待されていないなども取れる。

安陪委員 学生は、捉え方によって、授業中の学生と普通にまちにいるときの学生では違う。学校にいるときは、事務局等に連絡をして、何とか手伝ってくれという方法が取れるかも知れない。地元にいれば、こんな状況だから、ちょっと手を貸してと言う。

藤原委員 3 大学に通っている人が地域にいて、何人が集めてきてくれと言えるようになっていけばよい。

岩崎委員 もし近所に住んでいる学生に直接声をかけるということであれば、アンケートで想定している大学との連携というものには当たらないのかなと思う。それは、一人の区民として、人間として協力するということだ。想定しているのは、有事の際に、行政を通じてなのか、町会から直接くるのか仕組みを考えないといけないが、それぞれの大学にこれくらいの学生を派遣してもらいたいという何らかの要請があり、大学としても学生の安全の確保や親御さんとの確認が取れたあと、意思のある学生については、こういう要請があるので行きたい人ということによって大学が学生を募って派遣をすることだ。

原田委員 3 大学とうたっているのだから、そうなるだろう。大学生はアパートやマンションなど必ず近くにいるはずだが、3 大学となると、行政に窓口などがあり、ここにはこの学生、ここにはこの学生ということになる。周囲に寮などがあるから、一般的にお願いするということもあるだろうが、筋を通してお願いするのか、日ごろ顔を合わせているからお願いするよということにするのかだ。

安陪委員 「必要性を感じていない」というか、「要請の仕方がわからない」というような表現の方が、アクションを書く場合は書きやすいのではないか。

新田委員 地域から大学に、例えば学生 10 人派遣してもらえないかという依頼をしたときに、大学が学生に、何月何日何時にどこどこに 10 人集まってほしいという集める方法はどういう方法があるのか？

岩崎委員 いつ起こるかによっても違う。3.11 は春休み中で、普段は多摩区に住んでいる学生もほとんど帰省していて、500 人くらいしかいなかった。いろいろなことが想定される。ツールとしては大学から一斉送信メールというものがあるが、もし今、夏休み中に地震が起こったら、10 人集めるのは難しい。インターネット等が使えるという前提であれば、ツールとしてはある。

吉田委員 一般的に考えて、先日も麻生区で床上浸水して家の中に泥が入った。そういう時に学生にお願いをして、ボランティアをしてくれる人が泥かきを手伝ってくれる。今は老人が多いので、自分たちでは何もできないところを助けてあげる。そういう時に要請をすると学生が手伝ってくれるようなお願いができる形を取れないか。

荒井部会長 以前、藤沢市と東海大学の災害時の地域との連携協定の事例を示した。学生が消防隊を作り、実際に消防訓練をしている。実際には、学生に地域に対してのボランティア意識、いざというときにスポーツ部がまとまってボランティアに行くみたいなことが、当然起きて来るのだと思う。連携協定を結ばないと、実際には難しいだろう。それを目指すために書いてもらえると、それをもとに大学側にいろいろできると良い。手順として書いてもらいたいということだ。

岩崎委員 明治大学では駿河台キャンパスと千代田区が連携している。

石橋委員 この設問の内容は、地域の大学生個々だ。たとえば防災訓練をいついつやりますから参加してくださいと大学に掲示してくださいと言っても、参加は個々の学生になる。もともと区民会議の全体会で発言された方が、大学を相手にして問題提起をしたのか、自分たちの町会に大学生がたくさん住んでいるからその方に関わっていただきたいということなのか。出発点をどちらにするかによって、前文も変わって来る。前文は3つの大学がある特異な区です。学生もたくさんおられるでしょうからとすれば、3大学以外の学生もひっくるめることができる。設問の1、2は地域住民としての当り前のことを聞くことだ。大学との連携の話になると、今のように段階を踏まなくてはならない話が出る。舵を切り直すなら直して設問を作らないと、混在した設問になっていると感じた。

21日に川崎市の障がい者の団体と仙台に行き、仙台の障がい者の団体と3.11について意見交換をした。一人の脊損の方が12階に住んでおり、助けに来たのが6階に住んでいる大学生だったと話していた。常日頃は何も話をしたことがないが、12階に住んでいることを知っていたのだ。若者と12階まで駆け上がり、非常階段で1階まで下ろしてくれた。地域のかかわりを問うなら、こういうことかもしれない。まちの中で生活する上で、第三者の力を借りなければというのであれば、日ごろからのかかわりを持っていないとできないのかなと思った。

藤原委員 個々の関係ではなく町会との連携なので、大学との関係としないとうまくいかない。町会個々に大学に連絡をするなら、窓口を作るとか。何月何日に防災訓練をしますと掲示板に貼ってもらう。そうしないと、参加してもらえない。

吉田委員 町会から言っても、行政がきちんとしてくれないと参加してもらえない。

石橋委員 それを言ったらどうどう巡りになる。それなら多摩区は大学と防災協定を結んでくださいという一項目で済んでしまう。協定の中身をどうするかは別にして。地元に住んでいる学生には町会が一生懸命呼びかければ良いのだろうが、そうなるとこの設問が必要なくなってしまう。

事務局 大学との防災協定を念頭に置いたときに、協定の内容をアンケートで聞くということか。

吉田委員 元に戻って、地域は、大学に対して何を協力してほしいのかということになってしまう。

岩崎委員 タイミングが合うかどうかはあるが、昨年から3大学の学園祭にブースを作り、町会のPRを学生向けにしている。町会としてはこういうことをお願いしたいんだということを学生にじかにアピールするのも、広報活動の一環だろう。大学を通じてよりもじかに学生に伝える方が伝わることもある。

石橋委員 逆に、学生にじかに意向を聞いてみることもある。

岩崎委員 ヒアリングなりしていただいても良いだろう。

コンサル 昭和音大と川崎市は、災害時の施設利用については協定を結んでいるようだ。

藤原委員 (1) と (2) は空欄にして記入してもらった方が良いのではないかと。そうすると、
どういふところに関心があるのかが分かって来る。どういふ考えなのかを聞くしかない。

岩崎委員 大学にはできることとできないことがある。大学として正式に何人を派遣してくださいという問題であれば、大学としては当然受け入れるだろう。顔見知りを含めた個人個人の学生に手伝ってよということであれば、大学を介さなくても個人の判断で参加したり協力することに対しては、大学としてはそれを良いとか悪いと言える立場にはない。その線引きをするために、どういふことが要望としてあがってくるのか、そこを判断する材料にしたいというのが本当のところだろう。

事務局 (1) と (2) は個人の学生ということにし、(3) にそれらを実現するために、大学にお願いしたいこととするか。

岩崎委員 多少内容が重複しても、大学側が、これは大学生個人でできる、これは大学が仲介や情報伝達をしないといけない内容だなど、そこを判断する材料として意見を聞きたい。

藤原委員 もし大学に災害時の協力をお願いしたいのであれば、町連なりが方向性を示し、こういふことをご協力をお願いしたいんですというPRのようなことをやるのが大切だ。先日消火栓操法の訓練をしたが、学生が見てくれると関心を示す。そすると、消防団というのはこういふことをやっているだなど関心を示し、やってみようという学生が出て来る。町連としても学生に向けてPRをするべきではないかと思う。

吉田委員 操法大会は学生にも見てほしい。

荒井部会長 (1) はこのままにする。(2) は住民としての学生にどんなことをしてもらいたいか、(3) は大学としてどういふことをしてほしいと考えるか。もう一つ (4) は町内会・自治会として大学にどういふ働きかけをしたいと思ひますか。項目を分ければ考え方が出て来る。(4) は、大学にこういふことをしたいというのではなく、逆転する質問だ。町会から積極的にアピールしたいなどだ。

藤原委員 災害の時には町内会・自治会は大学生に協力してほしいわけだから、そのためには、町内会・自治会として学生にどのようなお願いをして、PRをすべきかも重要だ。

事務局 (1) と (2) の区別が分かりにくい。

荒井部会長 選択肢で聞けば、これだなという回答が出しやすいのではないかと。

事務局 (1) に「4 その他」の欄を作り、(2) と合わせてはどうか。具体的な内容は、その他の欄に書いてもらう。書きやすさの問題はある。いきなり自由記入欄で始まるよりも、まず選択肢があり、4番目に自由記入の方が回答しやすいだろう。

コンサル 一度まとめて、全体会の際に最終の確認をして設問を確定し、その後送付すれば間に合う。

前回のアンケートチームの検討で、アンケートの結果が出る前に、3大学連携協議会の担当者の皆さんにヒアリングをしてはどうかという意見が出て、8月5日の3大学連携協議会の際にこれまでの経緯等を岩崎委員から各大学の担当者に説明をしてもらうことになっていたが、何か反応等はあったか？

岩崎委員 趣旨説明を専修大学と日本女子大にした。女子大は、多摩区にキャンパスがあるが、住んでいる学生は少ない。そのため、スタンスが明治大学、専修大学と違う。女子学生ということもあり、ハードルが高い印象を受けた。

アンケートそのものよりも、個人情報等の手続き上の問題もある。たとえば大学にポ

スターを貼り公募をして希望者に意見を聞くやり方であれば問題はないだろう。今後実施する場合は詰めなくてはいけないことがあるが、地元からどういう要望が出ているか、学生個人、大学がどういう要望があるのか、認識を共有化した上でどういったことであれば協力できるのかを詰めてからの方がスムーズに進むのではないか。

コンサル 前回の話では、アンケート結果が出る前に意見を聞く場を設けようということだったが。

岩崎委員 次の会議が10月1日だ。

事務局 岩崎委員のおっしゃるとおり、段階を踏んだ方が大学としても受けやすいということだ。町内会・自治会のアンケートを実施した上で、次のステップとして大学への接触やアンケートのやり方を考えてはどうか。個人情報の関係で送付することはできないが、別の方法で可能か。大学の事務局とも良く話をしないといけない。その材料として今回のアンケート結果が説得力を持つ。10月1日はアンケート結果がまだ出ていない。区民会議フォーラムに向けて意見交換という話もあったが、間に合わない。

石橋委員 結構だ。後は、大学祭の時に町内会のブースで自主的に意見を聞くかということだ。

【取組み3】防災マップの作成

防災マップの作成にあたり、地図のサイズと掲載する資源について検討をした。

石橋委員 避難所、広域避難場所、防災井戸、給水拠点、消火栓、公共施設については、行政に資料がある。一時避難場所、消火器、救急病院、ガソリンスタンド、電柱変圧器、階段・行き止まりについては資料はない。

コンサル 地域に置いてある消火器の場所は、町内会の皆さんでわかりますか？

吉田委員 町内会では把握していない。消防の班があるところは班長が把握している。どのくらいのサイズの地図を作るか。

荒井部会長 身近な単位での防災マップをつくろうということだったから、避難所単位くらいではないか。

石橋委員 これまでの確認では、基本的には多摩区全体の地図をまず作成し、その後学校区ごとに作成するということがあった。

コンサル 学校区ごとの地図は、避難所運営会議等で作成することを区民会議として提案することになるだろう。今回の作業として、どのようなものを作成するかだ。モデル的に、一つの避難所エリアを選定して作成してみるという手もある。

荒井部会長 学校区で避難所を決めているが、その区切りが良いのかを判断しようということだった。

石橋委員 その中に、どの項目を盛り込むかだ。学校区と避難所の範囲は異なるので、学校区を入れる必要はない。どのような情報が載っていると良いか。

岩崎委員 コンビニはどうか。

吉田委員 消火器の情報を入れても、一般の区民は触ることができない。

原田委員 消火栓も開けられない。

石橋委員 それでは、消火器・消火栓は削除しよう。コンビニは載せた方が良い。ガソリンスタンドは栄枯盛衰がある。

吉田委員 消防署、警察署・交番、出張所などが必要だ。危険個所の急傾斜地は必要だが、その他は削除で良い。

岩崎委員 ガソリンスタンドは、3.11の時には危険施設というよりも、どこで給油できるかが重要だった。

石橋委員 急傾斜地の資料はある。ガソリンスタンドは、消防で情報を持っているか？

森田課長補佐 消防に聞けばリストがあるかもしれないが、区役所では把握していない。

吉田委員 リストがあっても、ガソリンスタンドはやめてしまったところもある。

石橋委員 ガソリンスタンドはリストがあれば記載しよう。町会の境は、小さな単位の地図を作成するときには必要だ。

藤原委員 一つの町会の中にも、避難所区域はいくつかに分かれている。しかし、いざとなったら、近い避難所に行く。

コンサル まず一回作ってみよう。地図のサイズはどのくらいが良いか。

石橋委員 一時避難所 10,000 分の 1 の地図を倍に拡大するくらいが良いだろう。

吉田委員 該当箇所にはシール等を貼るようにできると良い。

コンサル 5人ずつに分かれて2チームで作ってみよう。色のついた丸シールを次回用意する。次回の部会で作業をし、区民会議フォーラムに間に合わない場合は、追加作業日を設ける。

2 その他

- ・「多摩区こども区民会議」(8月25日(日)13:30~16:00 於:多摩市民館)への、区民会議委員の参加を呼びかけた。

【スケジュール】

- 第3回企画部会 平成25年8月30日(金) 午後6時~
- 第5回全体会 平成25年9月4日(水) 午後6時~
- 第8回自然災害部会 平成25年10月30日(水) 午後6時~

以上